

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所なかま		
○保護者評価実施期間	R6年 12月 16日		～ R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	R6年 12月 16日		～ R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○デジタル視覚支援ツール導入 楽しく遊んで、楽しく学び、子ども達自ら主体性を引き出し、「もっとやりたい」「できた」の為にプログラムを計画している。	・追視・注視の眼球運動や目と手の協調性、図形・色の識別、 マッチング等個人や年齢に合わせて取り組んでいる。	・保護者にも理解を深めてもらう為に、紹介の場を設けていきたい。 ・支援内容が固定化されない様その都度支援内容を見直し支援内容や方法が固定化されないように工夫していく必要性あり。
2	○充実した設備 広い室内で運動遊びやルール遊び等が楽しめる。またトランポリンやオーシャンスウィング等、感覚統合に働きかける遊具も備えている。	・運動遊びでは、PTの指導を受け、身体作りを目的としたアプローチをしている。 ・各部屋に分けて、活動設定や子ども達が見通ししやすい環境を心掛けている。	・自由遊びだけでなく、主活でも積極的に遊具を使っていきたい。 ・イレギュラーな環境や場面などの際に、子ども達がどの程度対応できるか観察し、必要に応じた対応を検討。 ・部屋が広い為、安全管理に努めている。
3	○月に一回程度の園外活動 季節によって公園散策やクリスマス会、親子参加型の活動を計画している。	・保護者参加型では、早めに予定を伝え、計画を立てやすくしている。 ・公共の場での、約束を伝えながら、社会性を育てている。	・定期的な保護者アンケートをとり、次の支援プログラムに入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・理学療法士や作業療法士など専門職員の配置が出来ていない。	・支援を行う中で、理学療法士・作業療法士等の意見や考えを聞くことができない。	・研修等で、質問しアドバイスを求める。 ・可能な範囲で専門職員を配置できないか法人に働きかける。
2			
3			